

町の実情を踏まえ積極的な対応を

野上祐一会長が計画案を答申

第2次中泊町長期総合計画、中泊町人口ビジョン及び中泊町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に係る諮問機関である「中泊町総合計画審議会・中泊町総合戦略審議会(全15名の委員)」を代表し、野上祐一会長が2月17日(水)、小野町長を訪問し、同審議会で話し合われた計画案について答申しました。

野上会長は、「総合計画は、社会情勢や財政状況を踏まえた行政運営をして欲しい。人口ビジョン・総合戦略は、進捗状況や評価、検証と結果を重視した取組を推進していくことを期待する」と述べました。

答申を受けて小野町長は「審議会のご意見を参考に今後とも計画を推進していきたい」と伝えました。



練習の成果を披露

こども園こどまりで合奏発表会

子どもたちの成長を見てもらおうとこども園こどまりでは、2月20日(土)に第1回作品展・合奏発表会が行われました。保護者ら約100人が見守る中、5、6歳児の子どもたちは緊張した面持ちで登場。演奏が始まると一生懸命演奏する姿に涙がこぼれる保護者もいました。

演奏が終了すると、会場には大きな拍手が響く中アンコールの声があがりました。演奏を終えた子どもたちは「緊張した。でも上手くできて嬉しかった」と笑顔で話していました。

冬の熱い闘い

ビーチボールバレー大会

冬の運動不足の解消や交流を目的にビーチボールを使ったバレー大会が2月7日(日)小泊小学校体育館で行われました。大会には、14チーム60人が参加。予選リーグ決勝トーナメントで争いました。中学生チームも参加し一般チームに挑戦しました。参加した選手は「運動不足解消にきたが、思いのほか熱くなってしまった。悔しいので、来年は練習して優勝したい」と話していました。

■大会結果…1位 アタックNo.2 / 2位 アタックNo.4 / 3位 中泊町活ハマクラブ



アスパラ収穫や地域活性化を考える

法政大学の学生たちが奥津軽フィールドスタディー

法政大学の学生たち20人が、奥津軽地域の各所を2月18日(木)～21日(日)まで訪れ、地方の現状や地域づくりなどを学びました。3日目の20日(土)は、当町で冬のアスパラを収穫後、ふれあいセンターに移動し、津軽鉄道の現状や課題についての講演を聞きました。

ワークショップでは、小学校3年生を対象に津軽鉄道を利用してもらう方法をグループで考え発表し、効果的なアイデアには大きな拍手があがりました。学生たちは大学では学べない、地域の人とのつながりや文化、津軽弁のあたたかさを感じたようです。



幻想的な灯火に癒される

雪灯籠づくり

2月6日(土)、B&G海洋センター隣の宝の森広場で雪灯籠づくりが行われました。参加した子どもたちは、赤や青などオリジナルのろうそく作りからスタート。外にでてからは、バケツなどの型に入れて作った雪のかたまりに穴を開けて灯籠に仕上げていきました。

また、雪をブロック状に固め、それを積み上げて作るイグルーにも挑戦し、完成したイグルーの中でくつろいでいました。最後はつくったろうそくを設置し、夕方に点火式を行いました。参加した子どもたちは「きれい。大変だったけど作ってよかった」などとやさしい灯火に癒されていました。



自分たちの大豆を使って

中里小2年生が豆腐づくり

中里小学校の2年生29人と保護者7人が、2月24日(水)、調理室で豆腐づくりを行いました。

豆腐づくりには、昨年町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」の会員のは場に植えて、収穫した自分たちの大豆を使いました。

ミキサーで豆を細かくくだき、鍋で煮て絞ると豆乳とおからができ、子どもたちからは「おおー」という声が聞こえてきました。にがりを入れると固まって豆腐ができあがりました。豆腐が苦手な子も「美味しい。これなら食べられる」と話していました。



シルバー世代の生きがいをサポート 社会参加を支援します

公益社
団法人

中泊町シルバー人材センター

■入会のご案内

町に居住する原則60歳以上の健康で働く意欲のある人

※シルバー事業は就業や収入を保障するものではありません。

■お仕事の依頼

シルバー人材センターは仕事の内容や発注者のご要望を考慮のうえ、「請負・委任事業」、「労働者派遣事業」、「有料職業紹介事業」の中から最善の形態を選定し、ご提案します。

高齢者に適したお仕事を承ります。まずはお問い合わせを！

※お仕事によっては、必ずしもご依頼を受けられるとは限りません。

◆会員の入会、お仕事の依頼に関するお問い合わせ先◆

〒037-0305 中泊町大字中里字宝森1番地2(中泊町老人福祉センター内)

公益社団法人 **中泊町シルバー人材センター** ☎ 57-2161